

平和の尊さを後世へ伝える

世界の恒久平和を願う心は、誰もみな同じ。多くの尊い犠牲を出した沖縄県民として戦争の惨過と悲劇を二度と繰り返さないよう平和を希求する心を育成します。



具志頭城址にある魄粹の塔には、多くの戦没者が奉られており、毎年多くの方が参列し、平和を願い戦没者に黙とうを捧げています

地域交流

結ばれる絆

育んできた絆

八重瀬町は、先人たちが培つてきた年中行事が数多く残り、昔ながらの慣わしや風習が今もなお息づくまちです。その中でお互い一人ひとりが助け合う心と仲間同士の深い絆を育んできました。それを軸に現在は、自治会を中心に子ども会や青年会、婦人会、老人会などの団体が活動を展開しています。

助け合う心と深い絆。本町は、この精神を大切にしながら住民の協働のまちづくりを進めています。

慰靈の塔をきっかけにした絆

八重瀬町具志頭城址には、高知県と山梨県出身の戦没者が奉られ、慰靈の塔が建立されています。

地域と世代を超えた深い絆

世界各地には、地域社会で活躍している県系人が大勢います。長い歴史の中で、初期移民者が幾多の困難を乗り越え、今日の沖縄県人社会の繁栄を築き上げてきました。そして故郷を思う心やウチナーンチュの精神は、



子ども会を中心とした「子ども祭り」や老人会を中心とした「ゲートボール大会」などを定期的に開催しています



交流のきっかけとなつた土佐之塔(上)と甲斐の塔



第4回世界のウチナーンチュ大会時に開催された「八重瀬町出身者歓迎のタベ」(左)と「ブラジル・アルゼンチン移民百周年記念」



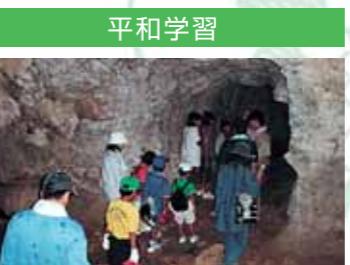
ふるさと八重瀬町においても三世・四世へ大切に受け継がれています。

町出身の県系人を思う心は同じです。「世界のウチナーンチュ大会」や「ブラジル・アルゼンチン移民百周年記念」などを通して、地域・世代を超えた絆を深めてきました。国際化が進展する現代社会の中で、次代を担う人材を輩出していくためにも、海外移住子弟研修生受入事業などの施策を推進し、積極的に国際交流の輪を広げていきます。

毎年実施している慰靈訪問を機に遺族会との交流が始まりました。現在、姉妹都市提携と防災応援協定を結ぶ高知県香南市とは、毎年交互に両市町の児童を派遣させる「高知県・八重瀬町児童交歓会」を行っています。また、山梨県身延町とは、人材育成交流事業などを通し交流を図っています。「慰靈の塔」をきっかけにした絆を大切にしながら行政・教育・文化・産業など多様な面で交流の場を広げていきます。



慰靈の日の前後に合わせて開催されている平和資料展は、戦争で使われた遺品や太平洋戦争に関する資料を展示しています



戦争の激戦地となつた八重瀬町には、又マチガマやクラシンウジョウなど戦争遺跡が数多く残り、平和学習の場所となっています



平和音楽祭



平和事業舞台企画「平和音楽祭」は、沖縄戦で受けた悲しみを「平和の希望」に変える架け橋として開催しています



八重瀬町こいのぼりの集い

八重瀬町こいのぼりの集いは、具志頭城址と八重瀬公園入り口の慰靈碑にこいのぼりを掲揚し、平和の心を育んでいます

町慰靈祭」や「平和事業舞台企画」、「平和事業資料展」、平和の願いを込めた「こいのぼりの集い」などさまざまな平和事業を実施しています。

月日とともに戦争の悲劇が薄れることがないよう平和事業の歴史を後世に正しく語りつぎ、平和を希求する心を育成しています。